

G. 正確さ G-1 釘打ち

氏名:	記録日:	記録者:
-----	------	------

◆用意するもの: ①マット、②木片、③釘3本、④金槌

◆検者と被検者の標準位置:被検者はテーブルに向かって椅子に腰掛け、対象手をらかな肢位で机上におく。検者は原則として被検者のほぼ正面に自分の位置を決める。

◆検査手順: ①習字用フェルトを机上中央に敷き、その上に②木片を横長に置き、③釘3本を約5cm間隔で、頭部を10mm残して打ち込んでおく、④金槌を対象手の近くの空中に、持ちやすい位置に提示して言う:「この3本の釘を打ち込んで下さい。はいどうぞ!」。釘の打ち込みは、1本あたり最大10打とし、それを超えた場合には、「次の釘に行ってください」という。

☆非対象手で木片を押さえてよい(釘の固定は不可)。

◆対象手:通常は優位手(被検者がもっとも使いやすくと感じる方の手)のみでよい。

◆評定と記録:
 検者は釘の頭に金槌が打ち込まれる状態を観察し、試行ごとに判定を書き込む。
 ○:釘を完全に打ち込んだ
 △:不完全に打ち込んだ
 ×:ほとんど打ち込めない

「成功率」:完全に打ち込みむことができた釘の数の割合

使用手 金槌使用()手 + 木片押さえ()手

	釘 1	釘 2	釘 3	成功率	備 考
試行1	(○ △ ×)	(○ △ ×)	(○ △ ×)	/3	
試行2	(○ △ ×)	(○ △ ×)	(○ △ ×)	/3	
試行3	(○ △ ×)	(○ △ ×)	(○ △ ×)	/3	

G. 正確さ G-2 注ぎ入れ

氏名:	記録日:	記録者:
-----	------	------

◆用意するもの: ①ペットボトル2本(片方に200ccの水を入れておく). ②スーパーレジ袋またはビニール袋(こぼれた水を受ける即席の盆として使う). ③ストップウォッチ.

◆検者と被検者の標準位置: 被検者は机に向かって椅子に腰掛け、両手をらかな肢位で机上におく. 検者は原則として被検者のほぼ正面に自分の位置を決める.

◆物品提示と検査指示: 検者はあらかじめ、レジ袋またはビニール袋で即席の盆を作る. 水の入ったペットボトルを対象手の前に、空のペットボトルを非対象手の前に置いて言う: 「この水をこぼさないように全てボトルに入れて下さい. 念のため時間を測りますが、急ぐ必要はありません. 正確を第一としてください」. 原則として優位手のみ3試行おこなう. 参考のために注ぎ開始から終了までの所要時間を計る.

☆非対象手で空のボトルを押さえてよい. ただし持ち上げてはならない.

◆対象手: 通常は優位手(被検者がもっとも使いやすくと感じる方の手)のみでよい.

◆評定と記録: ボトルに入った水の量を目視で評定する.

注ぎいれる手(右手)+押さえの手(左手)

	注ぎ入れた水量	所要時間*	備考
試行1	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
試行2	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
試行3	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
中央値	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	

* 所要時間は参考のために測定する

注ぎいれる手(左手)+押さえの手(右手)

	注ぎ入れた水量	所要時間*	備考
試行1	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
試行2	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
試行3	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
中央値	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	

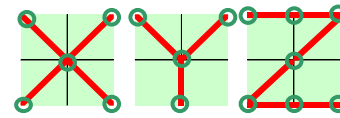
* 所要時間は参考のために測定する

G. 正確さ G-3 マス目内記入

氏名:	記録日:	記録者:
-----	------	------

- ◆用意するもの:①HB鉛筆、②ストップウォッチ、③A5版紙片。
- ◆検者と被検者の標準位置:被検査者は机に向かって椅子に腰掛け、両手をらかな肢位で卓上におく。検者は原則として被検者のほぼ正面に自分の位置を決める。
- ◆検査手順:①机上に、本紙を書きやすい位置に置く。②対象手の前の空中に、HB鉛筆を持ちやすい位置に提示し、該当部位をさしながら、次のように言う「マス目をいっぱいを使って、これ(見本)と同じ文字を書いてください。文字の端が必ずマス目の縁に正確に届くようにし、かつはみ出さないようにしてください。またマス目の中央の点をとおるようにしてください。書き直しはしないでください。念のため時間を測りませんが、急ぐ必要はありません。正確を第一としてください。どうぞ!」。③3試行続けて行うが、参考のためにそれぞれの所要時間を計る。
☆実施に際して、検査用紙の上部を紙片で隠しておく。
- ◆対象手:通常は優位手(被検者がもっとも使いやすいと感じる方の手)のみでよい。
- ◆評定と記録:

接点の正確さ:以下の16点について正確に接しているかどうかを判定する。正確であるとみなす基準は接点での不足または過剰が±1mm以内。



(5箇所) (4箇所) (7箇所)

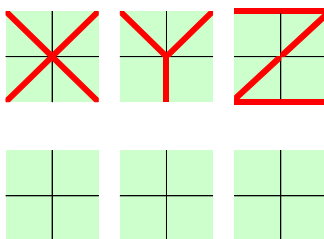
Xについてはマス目との接点4箇所及び中央の交点1箇所(5箇所)、
 Yについてはマス目との接点3箇所及び中央の交点1箇所(4箇所)、
 Zについてはマス目との接点6箇所と中央の交点1箇所(7箇所)、

使用手 ()手

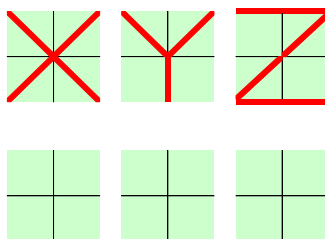
	記入の正確さ	所要時間*	備考
試行1	()/16	(秒)	
試行2	()/16	(秒)	
試行3	()/16	(秒)	
中央値	()/16	(秒)	

* 所要時間は参考のために測定する

試行1



試行2



試行3

